

合格体験記

令和4年3月に卒業した生徒たちが書いてくれました。

① Aくん(東京都立大学経済経営学部／一般選抜)

私は1年時の進路学習でクラスの人から都立大学のことを聞いて志望校にしました。国公立大学は5教科受験であることを知っていたので、定期テストなどは真剣に取り組みました。予備校で授業を受けている人の中には、学校の授業やテストを軽視する人もいますが、同じことを予備校でもやることになるなら、一度学校でやって定着させた方が無駄がないと思ったので、定期テストは真面目に受けていました。

私が受験勉強を始めたのは2年の始め頃でした。まずこの頃は勉強をする場所を探しました。私の場合は家で集中することができないので、自習のできる施設などを見つけて勉強を始めました。その時、勉強の方法も分からなかったのですが、とりあえず過去問を見てみたのですが、これは案外良かったのかもしれません。なぜなら、受験校の問題を見ておくことで自分のやるべきことが明確になったからです。勉強法を考える際はYouTubeの勉強法の動画を見て自分に合うものを選択するのも良いかもしれません。私がYouTubeで良かったものは英語で、学校の授業や問題演習などで分からなかった単語をノートにまとめてそれを何度も復習するという方法でした。あと予備校の模試を受けてみるのも良いと思います。私は2年生の時、共通テストの同日模試を受けましたが、この模試で自分の実力の無さを実感して焦ることができたのは大きかったと思います。東進は模試を受けると無料で講習を受けることができるのでこれも利用すると良いかもしれません。わざわざ予備校に足を運ぶことは大変かもしれませんが、私は勉強をする意識が高まりました。次に、国公立を目指す人はとにかく早めに勉強を始めることをすすめます。教科数が多いのでどの教科をどのくらいの時期に終わらせるかなどの計画をある程度立てておく必要があると思います。私は社会科目2つを3年までに一周し、英語、数学を共通テストレベルまで仕上げ、夏休みには漢文をやり、二次対策を始めようと考えていました。完璧にこなすことはできませんでしたが、ある程度はできたと思います。最後に、精神面では、勉強が辛い時は、落ちて浪人や第二志望などに行く方が辛いと考えてがんばっていました。皆さんも頑張ってください。

② Bくん(早稲田大学社会科学部社会学科／一般選抜)

僕が早稲田大学を第一志望にしたのは、3年の春でした。それまでは上智大学が第一志望だったのですが、迷っていたので上智と早稲田両方のキャンパスに行ってみて、早稲田のキャンパスに惹かれたので、早稲田大学を第一志望にしました。大学受験では学力だけでなく、戦略なども重要になってくるので受験を始めるにあたって最初に考えました。夏休みまでは基礎固め、夏休み中はセンター過去問などをやり基礎の最終確認、9月～12月はMARCHの過去問、12月～2月は早稲田の過去問という風に勉強の大まかな計画を立てました。英語は最初に基礎的な単語を覚え、それと並行して文法にも取り組み、ネクステージを何周もして基本的な文法知識を詰め込みました。英語の土台がある程度できたところで、構文を正確に理解するために英語構文の参考

書を1冊やり、構文の勉強をしました。英語長文を読む力の土台が出来たので、夏休みからMARCHレベルの長文問題集をやり、長文の読み方や、解き方を学び、読み終わった長文は全部に構文を振り、5回音読をすることによって英語のリズムや英語を英語のまま理解する能力が鍛えられました。9月からはMARCHの過去問をやり、応用力を鍛え、早稲田の過去問で戦う体力も同時に鍛えました。そして早慶の英語は専門的な長文が多いのでシステム英単語などの基礎的な単語だけでは十分に戦えないのでパス単準1級をやり早慶に必要な単語力を作りました。そして構文も複雑なものが出てくるので、ポレポレ英文読解プロセス50を使い複雑な構文に出会っても戦えるようになりました。12月からは早稲田の過去問、早稲田対策しかしてなかったです。自分は国語が苦手でした。だから入試本番では平均点よりも少し上を狙い、現代文では漢字、解き方を覚えてセンター過去問をやり、古文は単語、文法、読解を身につけ、漢文は句形を暗記して基礎を固めました。世界史は予習復習が重要です。予習の段階では大まかに流れと登場人物を把握して、授業で復習と自分が知らなかった所の補強をしました。大月先生がクイズのように聞くことはすべて答えられるようになるとベストです。文化史は早稲田ではそこまで細かいことは出題されないの、基本的なところをおさえて政治史に重きを置いていました。ただし、文学部、文化構想学部は文化史も細かいところまで出題されるので注意が必要です。

最後に、受験勉強を始める皆さん、最後まで絶対に諦めないでください。現役生は最後まで伸びるというのは本当です。自分は本番の3日前に早稲田の国語の解き方や解釈力が安定するようになりました。人それぞれ伸びる時期は違いますが、最後まで諦めないでください。受験は恋愛です！自分の志望校にどれだけ接近できるかです。大切なのは、やはり志望校に行きたいという気持ちなのではないでしょうか？試験中＝告白タイムであって、その告白タイムにいかにも多くの気持ちを伝えられるかではないでしょうか？緊張すること、焦ること、お腹が痛くなることもあるかもしれませんがそれでも諦めずに気持ちを伝えましょう。皆さんが希望する進路に行けるよう願っています。

③ Cさん(明治大学国際日本学部国際日本学科／一般選抜)

私が明治大学を志望した理由は、留学やインターンシップの制度が充実しているからです。コロナの影響もあり、志望していた大学のほとんどは実際に行って、見て決めることは出来なかったのですが、将来性と自分の強みを今一度考え、この大学、学部に決めました。私は、受験勉強を意識する前、高校2年生の夏まではほぼ毎日、部活や友達と遊んでばかりで全くと言ってもいいほど勉強をする習慣がありませんでした。当時の担任の先生にも今の成績では志望校に合格することは厳しい、せめて定期考査でこの順位には入らないと言われ、徐々に受験を意識し始めました。最初は勉強といっても何をしたらいいのかよくわからず、勉強の習慣を身に付けるためにも、まずは定期テストを本気でやってみようと思いました。その結果、点数はぐんぐん伸びていき、やればできると自分の自信にも繋がり、勉強への耐性もある程度身に付きました。その後、高3に上がってからやっと参考書を揃え、本格的に受験勉強を始めました。受験勉強は、まず自分の体力の限界を知ることが大切だと思います。長時間勉強しすぎて次の日まで疲労が残って、体調を崩してしまっては意味がありません。しっかり計画を立てて、自分自身を知ることが合格への第一歩です。やる時はやる、休む時は思い切って休む。受験は長期戦なので、半日や1日休んだところで

あまり変わりません。集中できないときは志望大学について調べたり、しっかりメリハリを付けて勉強に取り組んだりすることが大切です。例えば、家からキャンパスまでの距離や行き方を調べておくと、試験本番にも役に立っし、時間が無駄にならないので休む罪悪感も減ります。そして当日は、緊張しすぎて力を発揮できないこともあると思います。そういうことを少しでもなくすためにも、英検や外部模試は積極的に受けてください。やはり、学校で受ける模試とは周りの雰囲気が全然違います。私はそのおかげであまり緊張せず、最大限に自分の力を発揮することができました。また、短期目標を立てることもオススメです。定期考査も然りですが、英検だったり模試だったり、ある程度決まったスパンで具体的な目標設定を作ることで、モチベを保ちつつも集中して勉強に取り組むと思います。また、私は塾に通っていなかったため、放課後友達と残って図書室で勉強したりすることもありました。今は、コロナの影響で外部の図書館や自習室が使えなかったりするので、家で勉強するのが難しい人は学校を上手く活用すると思います。受験勉強は、長くてきつい自分との闘いです。でもきっと、一生でこんなに勉強をする機会は二度とありません。周りと比較しすぎず前向きに、最後の最後まで諦めずに自信をもって頑張ってください。

④ Dさん(國學院大學文学部外国語文化学科／一般選抜)

私は國學院大學に進学しました。この学校を志望した理由は、自分の実力にあった環境で英語を学びたかったからです。私が本格的に受験勉強を始めたのは三年生の7月の後半あたりです。塾には行かずにスタディサプリを活用していました。勉強することが嫌いだったので、当初はストレスで腹痛を起こしたり、勉強に集中できなかつたりしました。髪の毛も抜けてしまった気もします。気持ちを落ち着かせるため、まずは勉強習慣をつけようと思いました。最初の方は6時間くらいだったのですが、次第に勉強にも慣れていき、8月中頃には平均7~8時間くらいの質の高いと思える勉強をすることができました。自分は物事を計画的に進めることが得意ではなく、その時の気分に任せるタイプのため、勉強する科目もその日の気分任せでした。ただ闇雲に机に向かっているだけだと効率が悪いので、オンとオフのメリハリをつけ、質の高い勉強を死ぬほどやりました。自分にはこのやり方が合っていましたが、これが正攻法とは断言できません。しっかりと自己分析をして、自分に合った勉強法を見出すことが大事だと思います。

次に受験を振り返って役に立ったことを三つ書きます。一つ目は定期テストが役に立ったことです。定期テストをさぼらなかつたおかげで、受験期に基礎が少しできていたため、比較的早く問題演習に取り組むことができました。二つ目は身体を動かすことの大切さです。受験シーズンはどうしても部屋に籠りがちですが、筋トレやランニングなどをお勧めします。運動はいい気分転換になりますし、脳を活性化させることができます。かりに運動をしなくても、せめて日光には当たりましょう。三つ目は受験日程の大切さです。私は第一志望の学校を初日に受け、見事に撃沈しました。難易度の低い学校を本命の前に受けた方がいいと思います。

最後に、受験期に気が狂うほど勉強をしましたが、やはり勉強は嫌いでした。それでも決して悪い経験ではなかつたです。皆さんも本格的に受験勉強を始めた時は絶望するかもしれませんが、これを乗り越えた先にはやっつけてよかったと思える時が来ると思うので頑張ってください。

⑤ Eさん(立教大学社会学部現代文化学科／一般選抜)

私は、高校1年生の時に学年で行った進路学習をきっかけに志望校を決めました。少しでも興味のある学問について調べ、最終的に一番面白そうだった社会学が学べる大学を探し、立教大学に決めました。高校では部活動に打ち込みたいと思っていたので、志望校を決めてからは、学習面は定期テストや小テストに全力を尽くそうと決めて、部活の無い土曜日の午後や日曜日にも図書館に行って課題などをしていました。定期テストに真剣に取り組むことで、自分にはどんな勉強法が向いているのか、どんな環境なら集中できる(又はできない)のか発見できます。効率よく勉強するには、自分のことを理解することが一番の近道だと思います。

2年生の時は部長の仕事もあり、勉強との両立がとても苦しく感じた時が多かったのですが、勉強の休憩が部活、部活の休憩が勉強だと思うことにして、限られた時間でどれだけ効率よく勉強するかを常に考え、スキマ時間(電車の中、信号の待ち時間、歯を磨きながら、髪を乾かしながらなど)を使って暗記していました。コロナウイルスの影響で学校や部活がないときは、モチベーションを保つことが一番難しかったのですが、他の人が勉強している動画を見てやる気を回復したり、スマホの画面を白黒にして触りすぎないようにしました。

3年生からの勉強で意識したことは、自分の弱点・課題を見つけ、それを一つ一つ潰していくことです。そのために、赤本と模試を大切にしました。赤本は夏前に1年分を解き、10月末ごろから本腰を入れて取り組みました。模試は、結果が悲惨でも「やった！弱点がたくさん見つかった！」と無理やり(声に出して)喜んでみると本当にそう思えるようになり、結果に一喜一憂することも無くなりました。発見した弱点は必ず克服して次に似た問題が出題されたときに必ず得点できるようにしました。私は英語が足を引っ張ることが多かったことに加え、英検のスコアも心許ない点数だったので、3年生になってから英検2級を計2回ほど受けなおして満点換算になるスコアを目指しました。英語は勉強の成果が成績に現れるのに時間がかかるので、1・2年生のうちから早めに取り組みしておくことをお勧めします。私の場合は、3年の春までに速読英単語・必修編を1周すると決めていました。直前期には焦ったり落ち込んだりすることばかりでした。しかし、結局今の自分にできるのはコツコツ勉強することだけだし、ここで諦めたら今まで支えてくれた人たちに合わせる顔がないうえに、今まで頑張ってきた自分に失礼じゃないか！と思うと、あと少し踏ん張ってみようと思えました。受験に立ち向かう皆さん、これから苦しく孤独なことも多いと思いますが、頑張る皆さんを応援してくれている人は必ずいます。最後まで諦めず、やり切ってください。合格を祈っています。

⑥ Fさん(早稲田大学文化構想学部文化構想学科／一般選抜)

私が早稲田大学を第一志望に選択したのは、二年生の2月頃でした。それまでは、大学で学習したい学問領域が漠然と頭の中にあっただけで志望校は決まっておらず、勉強も基礎的なことを継続していただけて、明確な目標を持っていませんでした。しかし、付き合いが長く、非常に賢かった他校の親友から「一緒に早稲田大学に進学しよう」と言われたことをきっかけに、早稲田大学に興味を持ち始めるようになりました。自分の専攻したい学問領域とぴったりの学部が複数あったことが決定打となり「全身全霊を尽くして勉強し、この大学に合格したい」と思いました。大学への志望動機は、このように些細なことから生まれることもあります。だから志望校選びで悩んでいる

方々は、大学で何を学習したいか、どう生活したいか、校風はどのような指向なのか、などといった「情報型」動機に加えて、(これらも、言うまでもなく大事です)普段の小さな出来事に心を動かされる可能性も捨てず、あえてそこからヒントを得る「情動型」動機も取り入れると良いと思います。大学入試に向けた学習において、大事なことは①知識の「積み上げ+反復」②知識の「運用による定着+応用」そして③問題の「本質理解」という、三本柱であるとあくまで個人的には感じます。一つ目は、いわゆる「暗記=インプット」を指します。暗記は疑いの余地なく学習の基礎ですが、これだけで解が求められる問題は、実は大学入試においては稀です。だから暗記だけでは大学入試は突破できません。二つ目は、「問題演習」を指します。一つ目の暗記事項を「アウトプット」することによって、知識をどう運用すれば解が導き出せるのか、という理解に繋がり、ここで「問題の解を出すことができる」ようになります。また、ここで間違えた問題から、自分の学習の軌道修正も行えます。三つ目は、「問題の出題者の意図を汲み取る」という復習過程を指します。これは非常に難しく、一つ目と二つ目の作業をじっくり詰めないと不可能に等しい過程ですが、出題者が「なぜこのような問題を作成したのか」を考えて、理解できるようになると、勉強が楽しくなります。この楽しさによって、また一つ目の作業に戻り、二つ目の演習に取り組み、三つ目の綿密な復習をする…という好循環が学習の唯一のコツです。学習とはいわば、この三位一体的骨格があって初めて成立するものであるだと思います。厳しいことを述べますが、「暗記をするだけで大学に合格できる」や「少しのコツで大学に進学する切符が手に入る」などという謳い文句は、文理の別や入学試験の難易度を問わず、机上の空論、つまり何の役にも立たない理想論でしかありません。だから、(大学受験においては)地道な努力は避けて通れない、ということをご肝に銘じてください。学校の先生に加え、塾の先生、それに先輩方など、不安なことやわからない問題について相談できる人は周りに沢山います。受験生の方々は、その人たちを頼って良いのです。自分の弱い部分は隠さず、それをどうすれば改善できるか、頼れる人にぜひ相談してください。ここまで読んで、「受験勉強が苦しそうで、嫌になってしまう…」と思う方もいると思います。ですが、「受験期間中、勉強以外はしてはいけない」なんてことは全くありません。自分の学習進度や学習目標をよく考えて計画を立てて、「その計画が上手くいっているなら」…家族との時間、友人との遊びの時間、趣味に打ち込む時間、大切な人との時間…「勉強以外」に時間を割くことも、社会の中に生きる人間としてむしろ大事なことです。「受験生の方々には、自分の学習状況と精神状態をうまくコントロールしながら頑張ってもらいたい」ということが、私の結論です。

蛇足にはなりますが、大学に合格することだけが正義なのではありません。自らの今後につながる活路を見出せるなら、大学でなくてもそれは正義です。また、このような未曾有とも言える混乱した世間の状態の中で「仲間と共に生きている」皆さんは、本当に立派です。そんな皆さんにとって大きな負担になるであろう進路決定やそれに伴う学習は、成功失敗の是非なく、経験として花を咲かせます。だから、人生一度の最高の経験として、1年間を有意義なものにしてください。最悪な状況にも挫けないみんなを、心の底から応援します。頑張ってください！！！！

⑦ Gさん(秋田大学国際資源学部資源地球科学コース／一般選抜)

私は2年生の2学期から具体的に進路について考え始めました。最初は自分の学びたい学問のある大学を調べました。フィールドワークなどを通して地学を学べる大学に進学したいと考え、

東京の大学よりも地方の国公立大を目指すことを決めました。志望校を決める理由は大学のレベルなどはあまり考えず、自分の専攻したい学問を重視するべきだと思います。1・2年時では、授業の復習を平日に取り組んでいました。本格的に受験勉強を始めたのは2年の3学期でした。国公立を目指していたため、3年生の夏休み前までは7教科の基本問題に取り組みました。3年では模試を受ける回数が今までとは比べられないほど増えていき、一つ一つ真剣に受けてきました。特に、夏休み前に受けた模試は自分の苦手な分野を見つけることに活用しました。また大学入学共通テストに重きを置き、夏休みは共通テスト対策を重点的にやりました。赤本は夏休み前に見ました。ここで解けない問題がほとんどだったのを理解して問題の傾向や時間配分に注意して問題に触れていました。そうすることで、自分にあった参考書を見つけること以外にも自分が目指す大学の問題傾向にあった問題集に取り組むことができました。特に、物理や数学は問題集を解くことをおすすめします。例えば、数学の問題に出てくるほとんどが数ⅠAⅡBですし、そこを理解していないと数Ⅲは理解できないのでチャートなどの演習問題を解きました。物理は原理を理解してないと解けず、問題によっては絵を書くことが大切となるため、量をこなしていきました。英語の勉強法としてはいくつかあると思いますが、長文読解を中心にやり、単語や文法は空いた時間にやっていました。例えば、寝る前にスマホの代わりに単語帳を開くなどできることはたくさんあります。最後に伝えたいことが3つあります。1つ目は部活で忙しくても毎日、一時間程度は勉強してください。それが、復習になってもいいので少しでも勉強しておくで後々演習の時間が増えていきます。国公立は7教科を夏休み中にすべて復習するのは不可能なので日頃から復習しておきましょう。2つ目は受験校について誰かに何かを言われても変えようとしなくてください。親や先生に言われても、受けて入学するのは自分自身だということを忘れないでください。3つ目は1つ得意な科目を持っておくことです。そうすることで、他の教科に割ける時間が増え、模試や受験で大きな武器になります。悔いなく勉強して志望校に合格してください！

⑧ Hさん(日本赤十字看護大学さいたま看護学部看護学科／一般選抜)

私が進路について考えたのは、高校一年の二学期ごろでした。入学した段階で看護師に将来はなりたいと考えていた私はどの学校に進学したいかを考えるために、一年生の時にできる限り多くの興味のある大学にオープンキャンパスに行きました。また、進学したい大学を決めた後の二、三年次も来訪型、オンライン型問わずに大学のイベントに参加して入試の情報や、学校説明、サークル情報などを聞き、受験勉強のモチベーションを高めるのと同時に受験に対しての対策も立てていきました。私は看護大学を受験するにあたって、国語の現代文、数学ⅠA、英語を重点的に取り組みました。特に、英語に関しては三年から勉強をするのでは間に合わないと感じ、二年生の時から少しずつ過去問などの勉強を始めていきました。過去問を解くときはどんな問題が出るかだけでなく、どんな形式で問題が出されるか、といった部分にも注目を置いて取り組んだほうが身につくと思います。自分が受験した大学の中には赤本がないところがあったので、大学から取り寄せたのですが、答えの解説がありませんでした。そのため、周りの友達や先生にわからない所を聞くようにしました。入試本番までには問題形式や過去に出た問題の解き方は覚えるようにしておいたほうがいいです。また、本番前の三日以内にはもう一度問題形式を思い出せるように各教科1年分やり直しておいたほうが良いと思います。一年次の受験勉強に関しては、部活と

の両立が難しいのと、進路についてはっきりと確定したわけではなかったので、毎日の授業の復習や英検学習に集中して取り組んでいました。また、そのほかにも看護体験や地域のボランティアに参加して、看護師になりたいという意欲を高めました。

大学受験という人生の一大イベント、それを乗り越えるためには、受験の為の勉強が必要です。しかし、一番大事なのは日々の授業をまじめに受ける事です。授業でわからない点があれば授業後でも友人や先生の手も借りながら早めにつぶすようにし、中間試験や期末試験でよい点を取れるようにする。これが自分の中では一番効率の良い受験対策だと思います。しかし、この時に大事なことは、高い点を取るのではなく、とるために努力することです。その時に努力したことは必ず頭に残り、三年になったときに受験勉強の効率がよくなると思います。実際に自分は塾に行かず日々の授業の理解度を高める事と先生との相談、友達からのアドバイスや参考書と過去問のおかげで志望する大学に合格することが出来ました。これから保谷高校に入学する方も在校生の方も日々の授業を大事に真剣に取り組むことが受験合格の近道だとわかってほしいです。もしも、つらくて耐えられない時は先生方に相談してみてください。きっと一緒に考えてくれます。自分も沢山助けていただきました。とても心強かったです。受験の前日は寝よう。ごはんもしっかり食べよう。親や先生、友達などの周りの人への感謝を忘れずに。何より頑張る自分を時々ほめてあげよう。幸運を心から祈っています！

⑨ Iさん(東京農業大学農学部生物資源開発学科／一般選抜)

私は生き物が好きなので、生き物について学べる大学に進学したいと考えていました。しかし、私は数学がとても苦手でした。そのため、数学を使わずに受験できる生き物を学べる大学を探して志望校にしました。もちろん生き物を学べる学部は理系のため、志望校が3校になりました。その中の1校は指定校のため、指定校推薦を取るか迷っていました。しかし、夏休み中の進路面談で「そこを指定校で受けるのは勿体無いと思う」と先生に言われたのがきっかけで、一般受験にチャレンジしようと思いました。

1・2年生の頃は、普段は自宅学習をしていませんが、推薦入試を受けようと考えていたため、テスト2週間前から頑張って勉強しました。写真同好会で活動が週1日なので、2週間前から勉強に集中できました。そして、3年生の1学期途中から本格的に受験を始めました。ただ、入試となると2週間前どころか半年以上前からの勉強が必要のため、目標が見えないで心が折れかけることもありました。また、問題が分からず行き詰まることもありました。それらの不安を解消するため、私は夏休み中に個別塾に入りました。個別塾では分からない所を丁寧に教えてもらえて、不安が少し減りました。私は国語・英語・生物の3科目で受験をしましたが、特に英語と生物が大変でした。英語の勉強でオススメなのがワードボックスのアプリを入れることです。暇な時にいつでもでき、本でやるよりもゲーム感覚で気楽に単語を覚えられます。このアプリで1日何個覚えるかを決めて、毎日繰り返して単語を覚えました。また、NextStageが勉強をやる上で役に立ちましたし、長文の問題集も解きました。生物はまず先生からもらったプリントを使って、赤シートで隠して用語などを覚えました。ある程度覚えたら、問題集を使って勉強しました。そこで習っていないことがでたら、ルーズリーフに内容をまとめました。国語は他の科目ほどは勉強しませんでした。過去問や問題集をやったり、漢字や古文

単語を学習したりしました。古典文法や文学史はスタディサプリで学習をしました。スタディサプリは国語に限らず、さまざまな科目に対応しているため、分からないところの確認などに役立ちました。英文法がほとんど分からなかったときに使ったのもスタディサプリです。色々工夫して、自宅で勉強しました。これまで私の経験や勉強法を書いていきましたが、大事だと思うことは、自分が納得できる勉強法を見つけ、それを継続することだと思います。受験勉強で不安になることはたくさんあります。そんな時に一番の励みになるのは、自分の積み重ねてきた努力への自信だと思います。努力は必ず実を結ぶわけではないかもしれませんが、自分の努力を素直に認めて褒めることが大切だと思います。私の書いたことが少しでも受験の役に立てたらうれしいです。応援しています。

⑩ Jさん(法政大学理工学部電気電子工学科／一般選抜)

私はオンラインゲームがとても大好きで高校 1・2 年生の頃は暇さえあればゲームをしていました。休みの日には 10 時間以上ゲームをしているなんて日もありました。その当時、私は「行ける大学に行ければ良いや」、「GMARCH など夢のまた夢」と思っていました。しかし高校 2 年生の冬、とある先生の「君なら GMARCH は狙えるよ！」という言葉で私の心に火がつかしました。私も GMARCH に行く！と決心したのです。まず受験勉強を本気でやるために私の恋人といっても過言ではなかったゲーム機を倉庫にしまいました。この選択のおかげで合格への第 1 歩を踏み出すことができました。ゲーム機が無くなったことによりゲームする時間が 0 になり勉強の時間が確保できるようになりました。しかし勉強が嫌いな私は最初、勉強するのがとても辛かったので少ししか勉強ができませんでした。そこで勉強時間記録アプリを友達と一緒に入れ、友達と勉強時間を競って勉強時間を増やすという事をやりました。このアプリが勉強のモチベーションを上げてくれて勉強時間がとても増えたと思います。夏休みまでは平日 4 時間、休日 7 時間くらい勉強していました。平日 7 時間、休日 12 時間やる日もありました。

学力を伸ばすチャンスは夏休み、しかしここで私は煮詰まって急に勉強時間が減ってしまいます。原因はやっても全く伸びる気配がない英語です。運が良かったことに学校の数学の先生と物理の先生はとても分かりやすく教えてくれる先生だったため数学と物理は得意でした。しかし、英語は中学校から苦手意識があり全然勉強してこなかった事もあり、とても不得意でした。この状況を変えるために私は予備校を変えることにしました。新しく入った予備校は英語が強いという噂があったため藁にもすがる思いで入りました。そこに入ってから毎日自習室に籠り猛勉強していました。朝も昼も夜もずっと自習室にいました。自習室に行くと思わず勉強したくなくても周りが勉強してるからやらなければならないという良い効果が働き、集中して勉強することができました。自習室に籠っていたおかげで平日の勉強時間は 5 時間、休日、受験期直前は 10 時間は必ず超えていました。もうひたすら勉強するしかなかったです。最終的に英語もかなり伸びたと感じています。受験において自分が 100%満足できる結果はそうそう出ないでしょう。第 1 志望に受かったとしても、もっと早く勉強を始めていたらもう少し難しい大学に行けたかもしれないなどと思ってしまうものです。それでも春に笑顔でいる自分の姿を想像してみてください。そうすれば自分が今すべきことが自ずと見えてくるはずですよ。